



第2章

鳴門市の現状と課題

1. 都市の現状

都市の現状整理にあたっては、8つの分野（①人口、②土地利用、③市街地整備、④道路、⑤公共交通、⑥公園、⑦下水道、⑧都市防災、⑨まちづくり）に分け、課題に繋がる内容を示します。

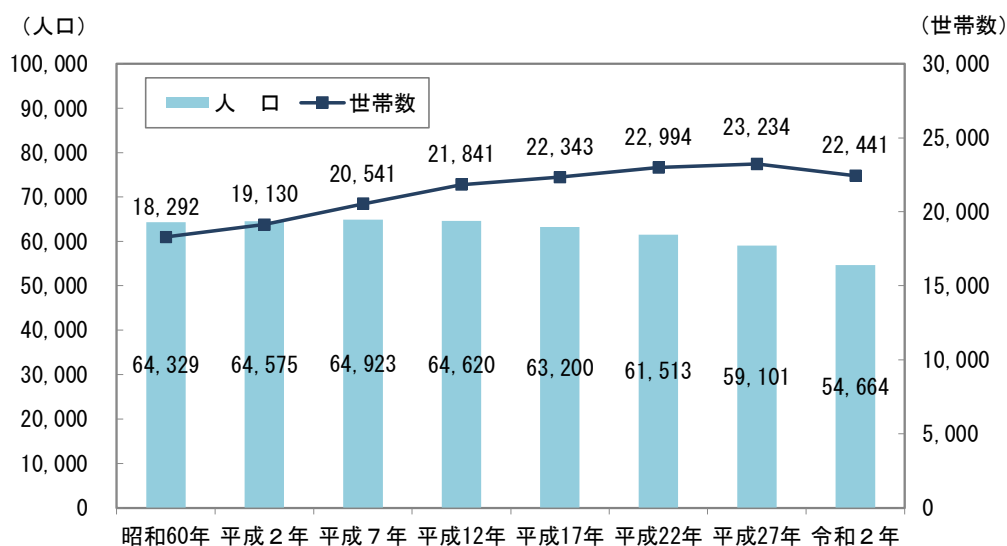
①人口

○本市の総人口は、平成7年（1995年）の約6.5万人をピークに、令和2年（2020年）には約5.5万人まで減少しています。

○将来人口の推移では、令和27年（2045年）の人口は約4.0万人まで減少し、年少人口比率は8.6%まで減少、老年人口比率は43.1%まで増加すると予測されています。

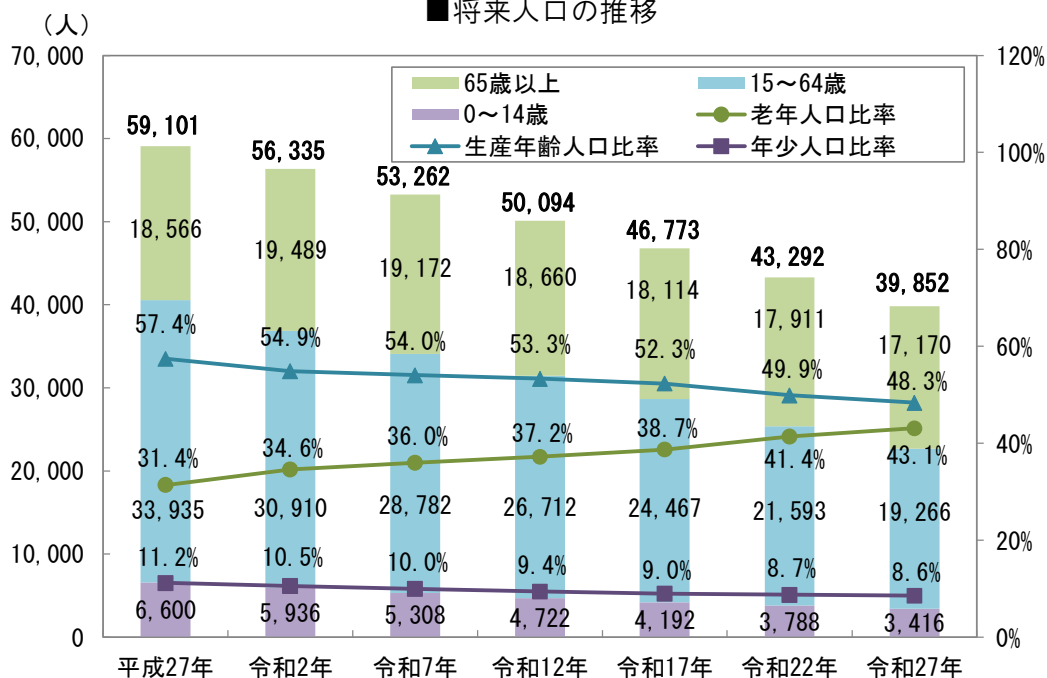
○社会減をみると、毎年本市への転入者数よりも転出者数が上回っており、転入出の差も少しずつ拡大傾向にあります。近年は300～400人／年の転出超過となっています。

■人口・世帯の推移



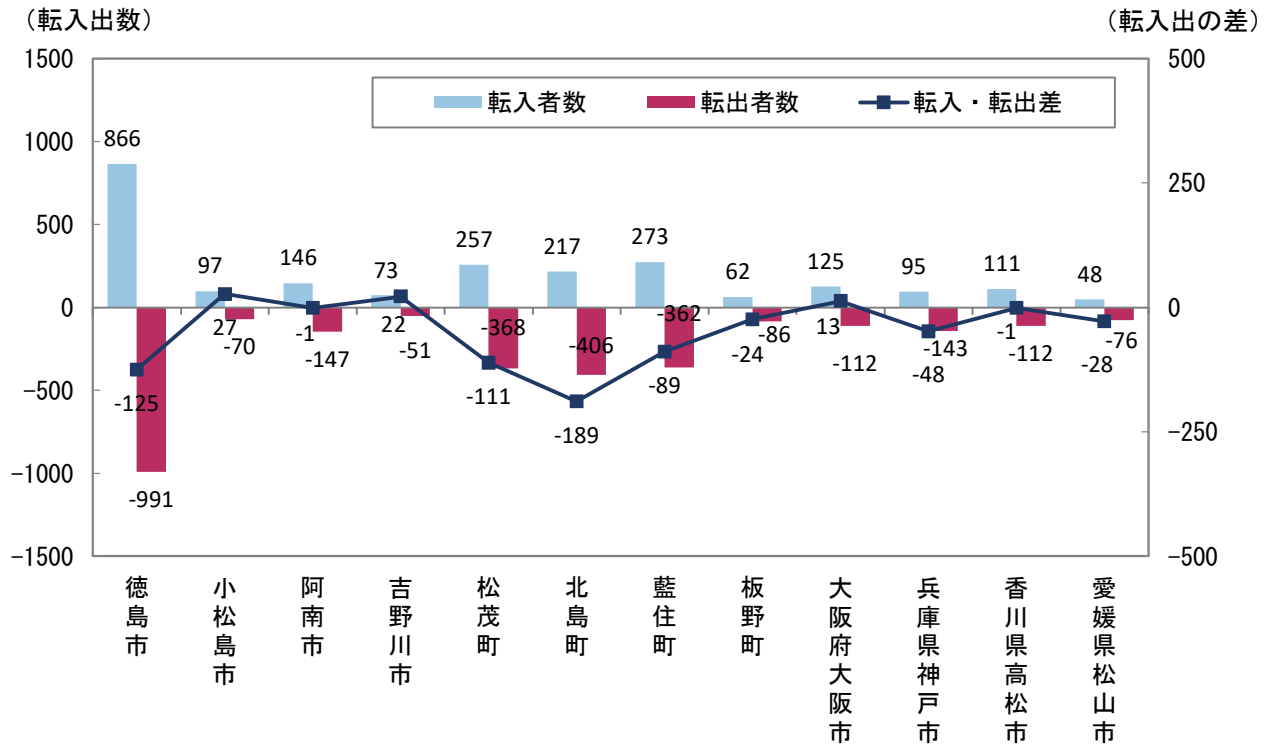
資料：総務省 国勢調査

■将来人口の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所

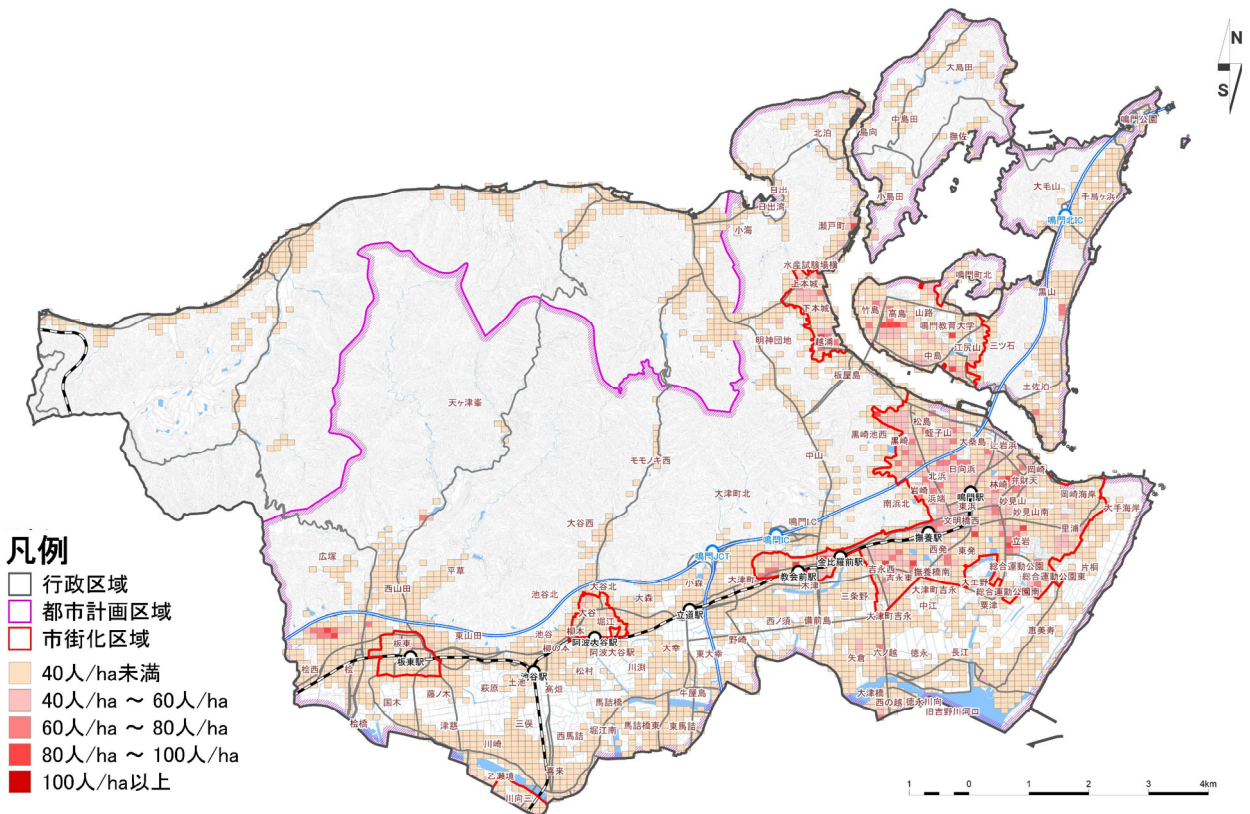
■転入者・転出者の推移



資料：鳴門市統計年報

○人口密度が 40 人/ha 以上の地域は、鳴門駅周辺、黒崎バイパス沿道、金比羅前駅周辺、教会前駅周辺、妙見山周辺、鳴門町の中島、瀬戸町の越浦となっています。

■100m メッシュ人口（令和 2 年）

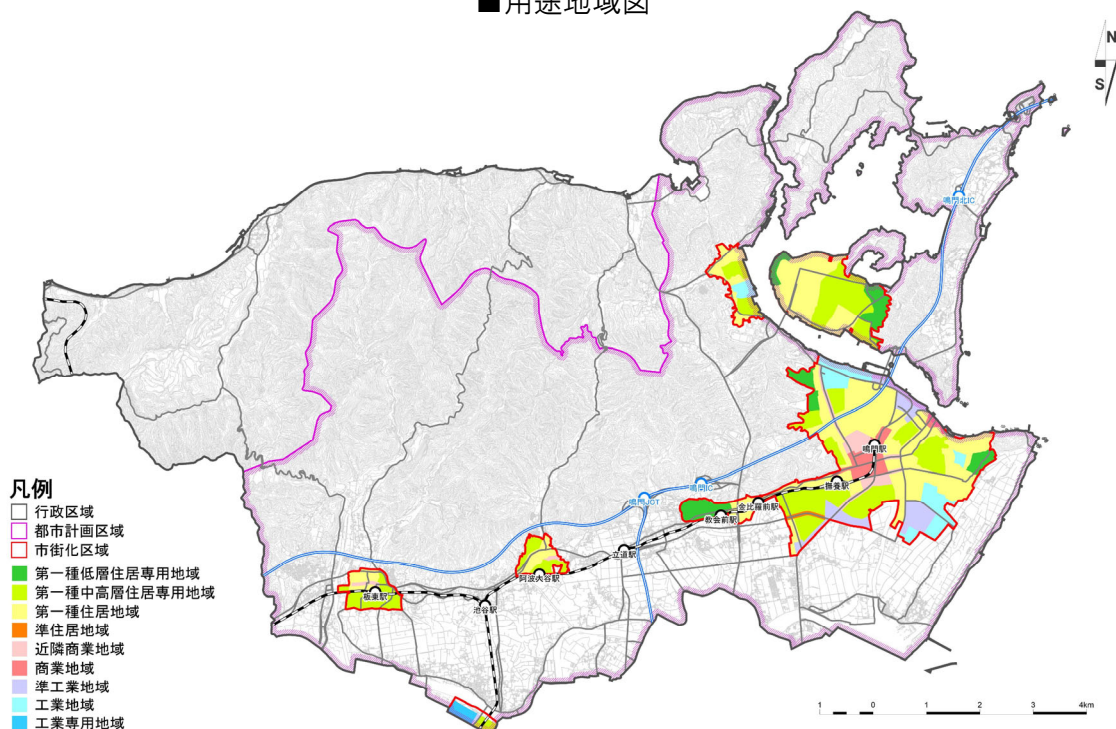


資料：総務省 国勢調査より加工

②土地利用

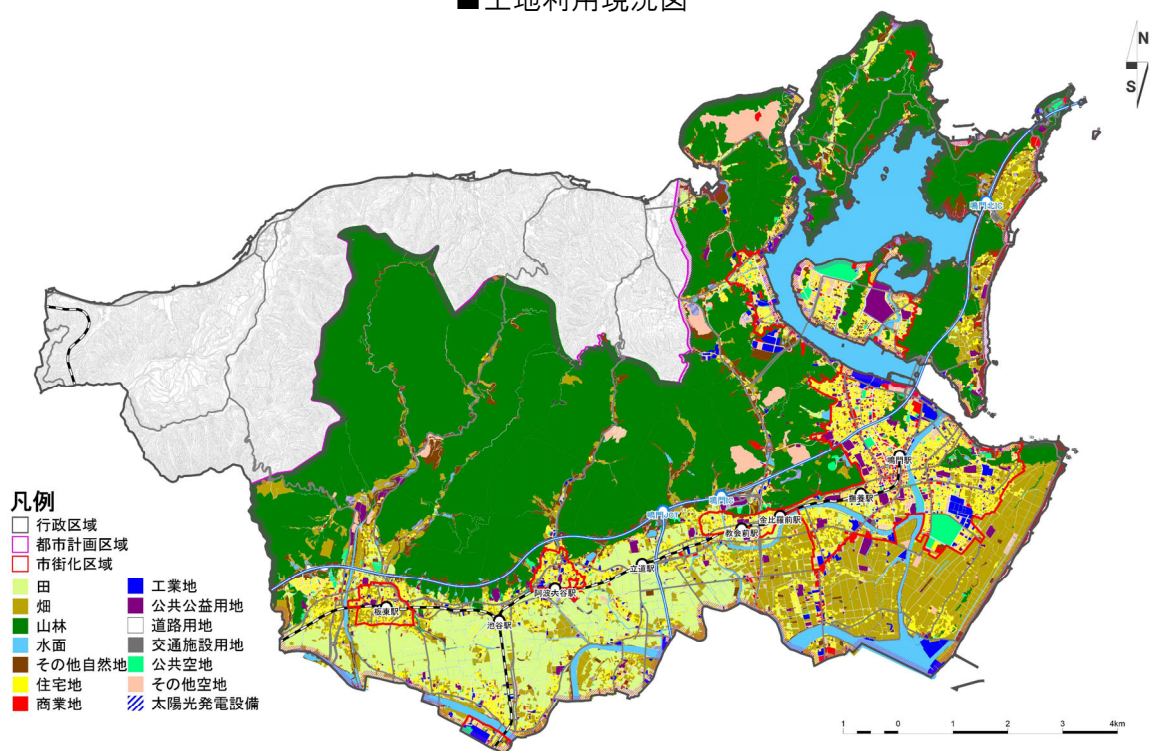
- 本市の市域面積 13,566ha のうち、北灘町を除く 10,515ha（市域の 77.5%）が都市計画区域に指定されており、その内の 1,337ha（市域全体の 9.9%、都市計画区域の 12.7%）が市街化区域となっています。
- 中心部を含む市街化区域では住宅地が広がり、大規模な土地利用として臨海部の工業地、球技場などの公共空地が見られ市街化区域を畑が取り囲んでいます。
- 市街化調整区域の平野部では、大谷川を境として東側は畑、南側は田が広がり、道路沿いに住宅地が広がっています。

■用途地域図



資料：平成 30 年都市計画基礎調査

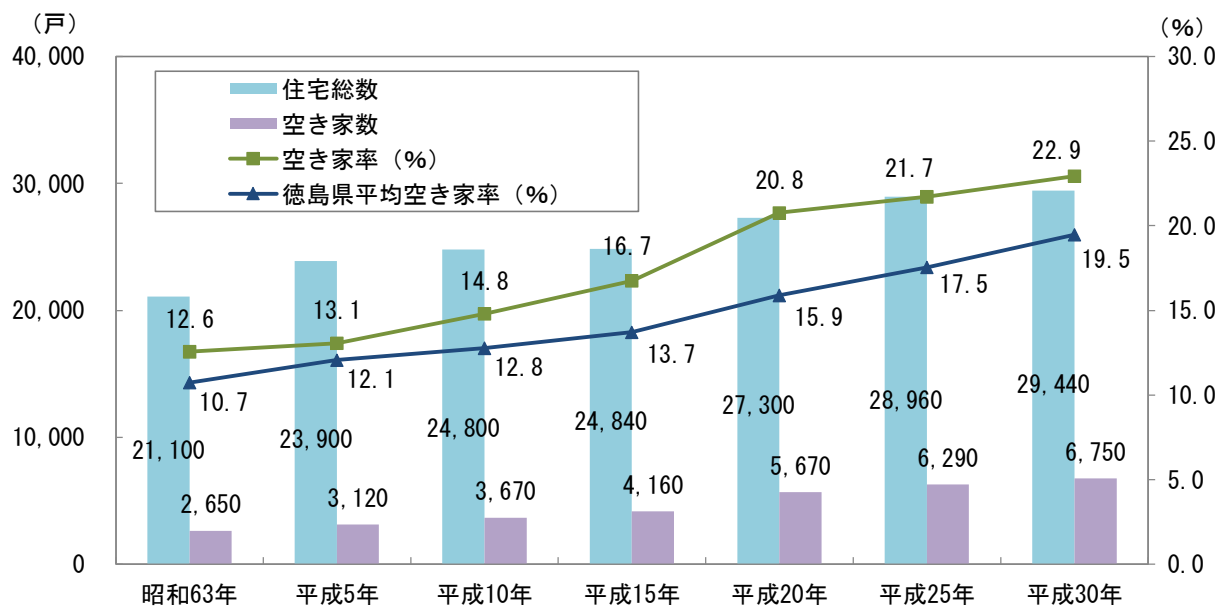
■土地利用現況図



資料：平成 30 年都市計画基礎調査

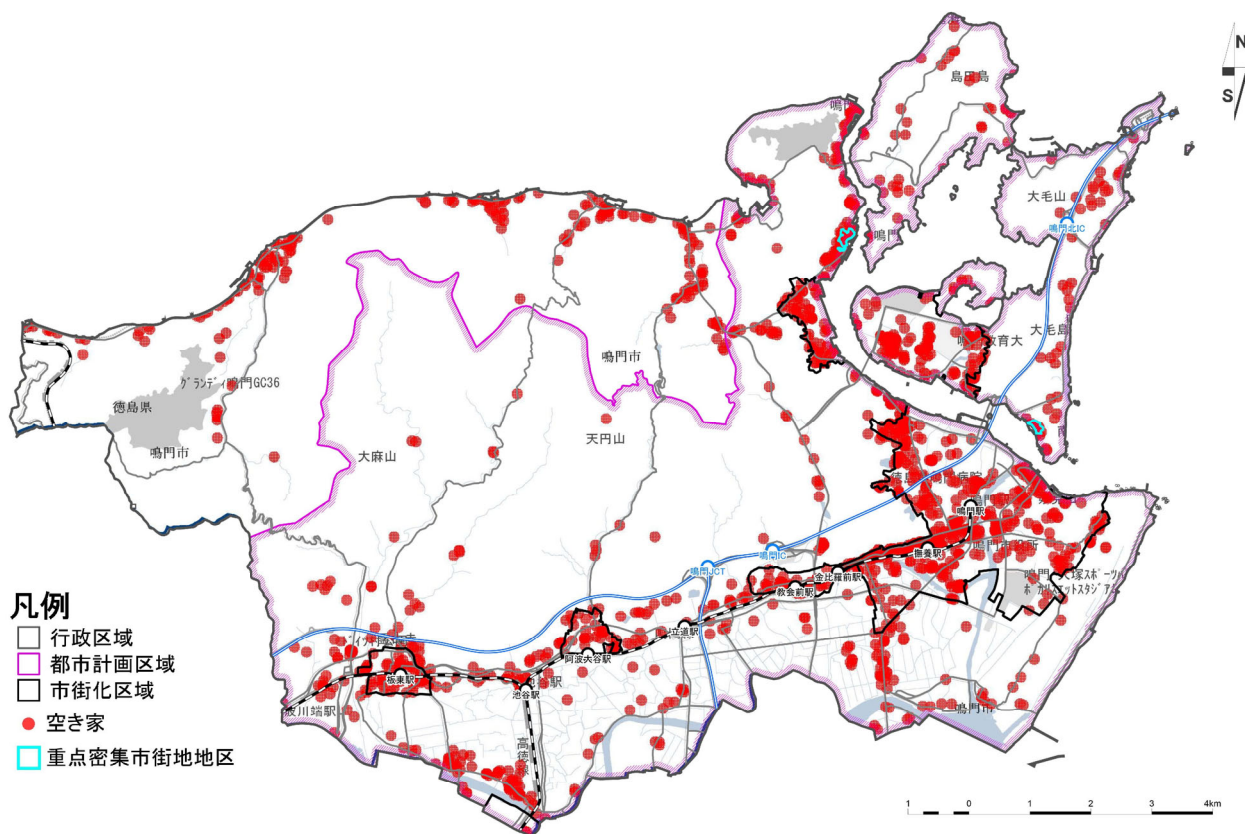
- 空き家数は、昭和 63 年（1988 年）から平成 30 年（2018 年）にかけて増加傾向であり、空き家率は 22.9%と徳島県平均の 19.5%より高くなっています。
- 空き家は、市内全域に分散しており、土佐泊・堂浦地区が「地震時等に著しく危険な密集市街地」に相当する「重点密集市街地」に指定されています。

■空き家数の推移



資料：総務省 住宅・土地統計調査

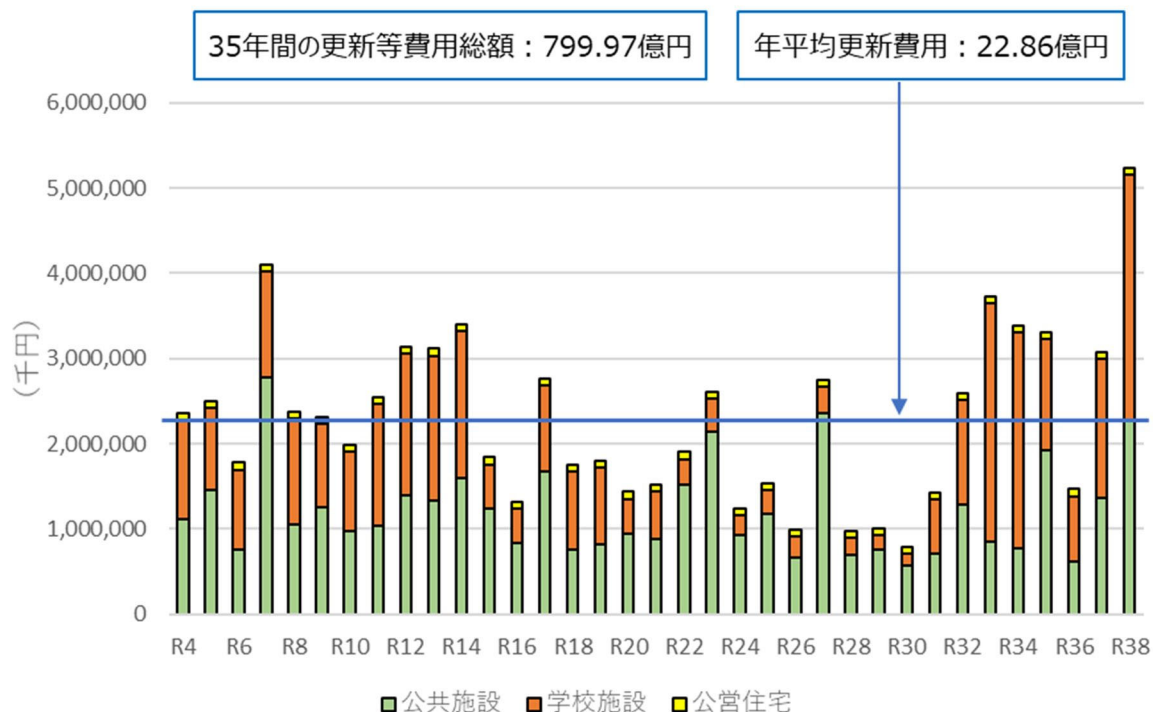
■空き家の分布と重点密集市街地の区域



資料：鳴門市

○公共施設の将来更新等費用の推計では、令和7年、令和11年～令和14年や令和32年～令和38年などにおいて、更新等に係る費用が多くなる見込みです。

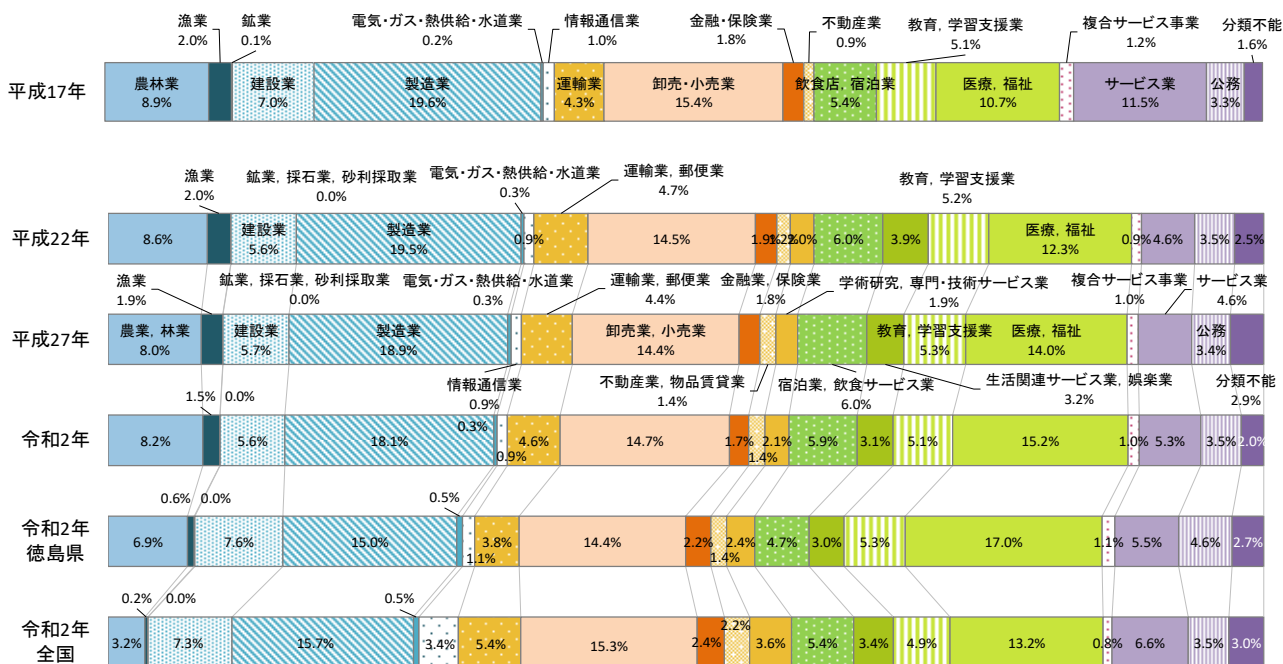
■公共施設の将来更新等費用の推計



資料：鳴門市公共施設等総合管理計画

○産業大分類別就業人口構成比は、農林業・漁業の第1次産業や製造業の第2次産業などの就業者数が減少傾向にあり、医療・福祉業については増加傾向となっています。

■産業大分類別就業人口構成比



資料：国勢調査

③市街地整備

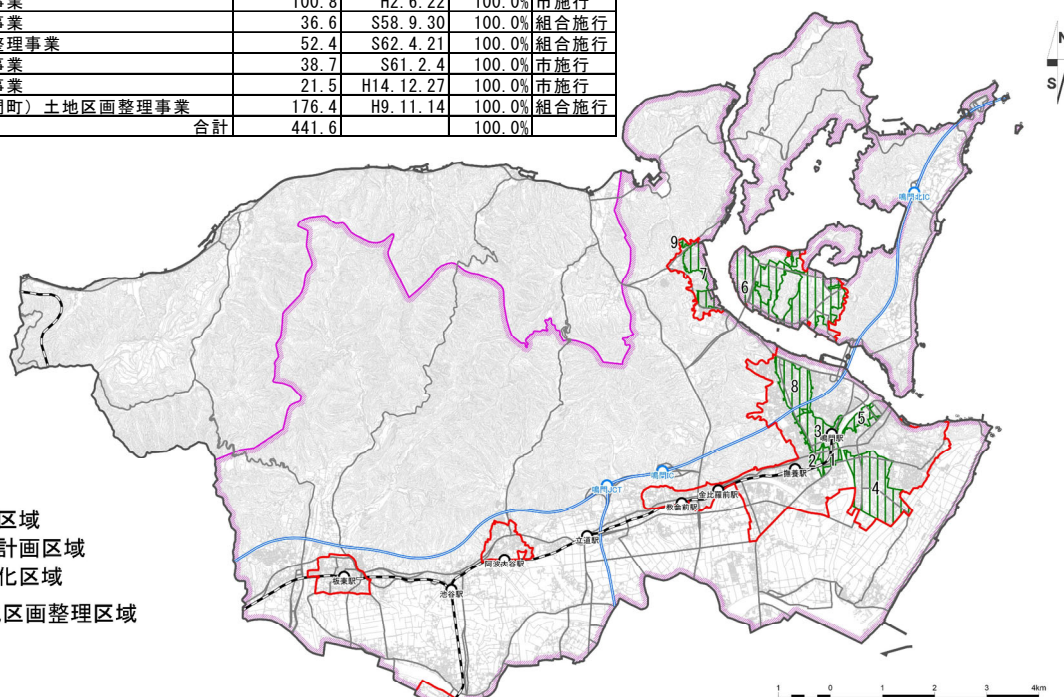
○土地区画整理事業は8箇所あり、全て整備済みです。

■土地区画整理事業の整備状況

ID	名称	面積 (ha)	換地処分 公告年月日	整備率	施行主体
1	小鳴門台土地区画整理事業	1.7	S56.3.27	100.0%	個人施行
2	弁財天・北浜土地区画整理事業	13.5	H6.10.4	100.0%	市施行
3	立岩土地区画整理事業	100.8	H2.6.22	100.0%	市施行
4	明神土地区画整理事業	36.6	S58.9.30	100.0%	組合施行
5	中水尾川土地区画整理事業	52.4	S62.4.21	100.0%	組合施行
6	撫養土地区画整理事業	38.7	S61.2.4	100.0%	市施行
7	東浜土地区画整理事業	21.5	H14.12.27	100.0%	市施行
8	高島・三ツ石（鳴門町）土地区画整理事業	176.4	H9.11.14	100.0%	組合施行
合計		441.6		100.0%	

凡例

- 行政区域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 土地区画整理区域



資料：平成30年都市計画基礎調査

④道路

○高速道路は、神戸淡路鳴門自動車道と高松自動車道が市域を東西に貫き、鳴門北ICと鳴門ICにより、市内道路網と接続しています。また、鳴門JCTで徳島自動車道と分岐し、本市と徳島市とを結ぶ軸としての役割を担っています。

○道路ネットワークは、国道11号及び国道28号により南北の主軸が構成され、このうち国道11号により、鳴門市中心部と市域北側の沿岸地域が結ばれています。

■交通網

凡例

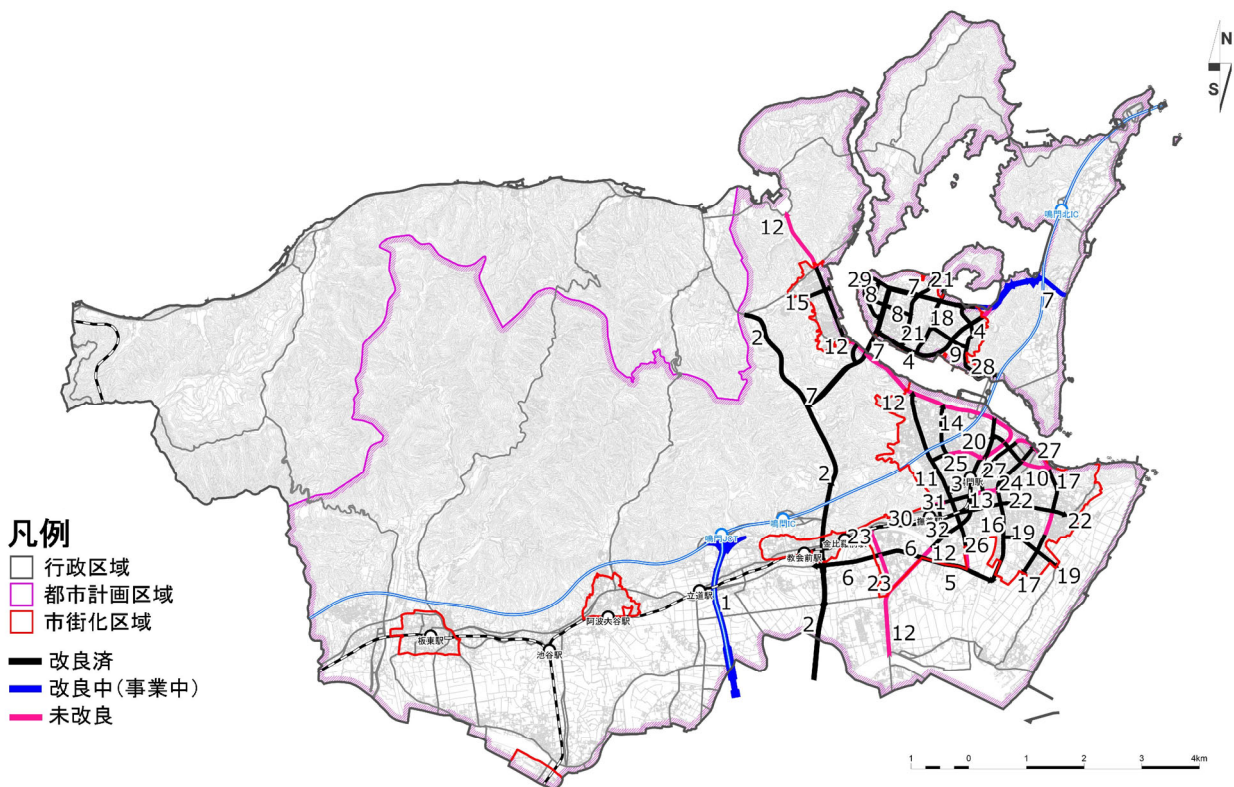
- 行政区域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 県道



資料：鳴門市

- 都市計画道路は、32 路線が都市計画決定されており、そのうち 19 路線が整備済、残りの 13 路線は未整備区間が残されています。
- 都市計画道路の整備率は 75. 0%となっており、徳島東部都市計画区域の平均 55. 4%を上回っています（平成 30 年時点）。

■都市計画道路の整備状況



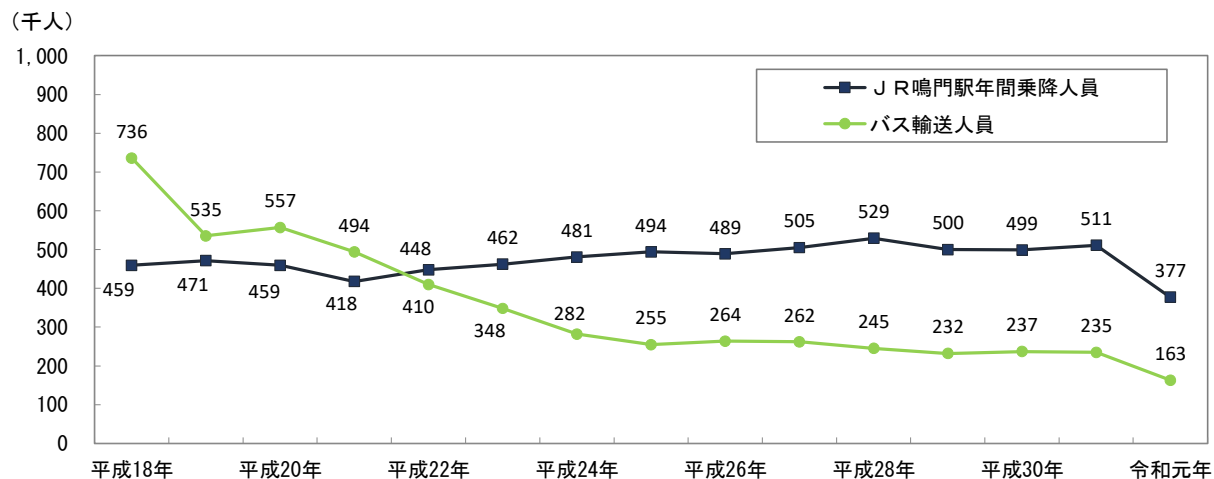
ID	路線番号	路線名	延長 (m)	改良延長 (m)	整備率
1	1・3・(2)	阿南鳴門線	2,330	0	0.0%
2	3・2・(4)	かちどき橋鳴門線	6,430	6,430	100.0%
3	3・2・55	鳴門駅斉田線	340	340	100.0%
4	3・3・57	横山高島線	2,340	2,120	90.6%
5	3・3・58	吉永里浦線	1,330	1,330	100.0%
6	3・3・59	吉永西小沖線	1,780	1,780	100.0%
7	3・3・61	黒山中山線	6,030	5,420	89.9%
8	3・4・54	山路竹島線	940	940	100.0%
9	3・4・56	三ツ石中島線	670	670	100.0%
10	3・4・60	辻岩岡崎線	1,480	1,000	67.6%
11	3・4・62	南浜黒崎線	2,490	2,490	100.0%
12	3・4・63	大津橋日出線	10,660	3,290	30.9%
13	3・4・64	南浜林崎線	480	140	29.2%
14	3・4・65	小桑島大桑島線	810	810	100.0%
15	3・4・66	下本城海岸線	460	410	89.1%
16	3・4・67	立岩西開線	1,380	1,380	100.0%
17	3・4・68	岡崎立岩線	1,990	1,540	77.4%
18	3・4・69	中島高島線	1,130	1,130	100.0%
19	3・4・70	立岩小高塚線	1,060	1,060	100.0%
20	3・4・138	桑島辻岩線	430	430	100.0%
21	3・4・148	山路高島線	1,340	1,340	100.0%
22	3・5・71	立岩里浦線	1,160	1,160	100.0%
23	3・5・72	吉永木津神線	1,130	200	17.7%
24	3・5・74	南浜岡崎線	2,050	2,050	100.0%
25	3・5・75	斉田撫養港線	960	300	31.3%
26	3・5・76	南浜大工野線	790	400	50.6%
27	3・5・77	林崎岡崎線	1,810	1,150	63.5%
28	3・5・78	小鳴門三ツ石線	1,960	1,960	100.0%
29	3・5・80	浜中南線	1,150	1,150	100.0%
30	3・6・73	南浜大代線	1,520	1,520	100.0%
31	3・6・81	南浜撫養駅線	900	400	44.4%
32	3・6・82	北国小路線	560	560	100.0%
合計			59,860	44,900	75.0%

資料：平成 30 年都市計画基礎調査

⑤公共交通

- JR 鳴門駅の年間乗降人員は、約 50 万人程度で推移しており、近年は横ばいとなっています。
- 市内バス輸送人員は、平成 20 年（2008 年）から平成 24 年（2012 年）において急激な減少傾向をみせ、平成 25 年以降は概ね横ばいの推移を示しています。

■JR 鳴門駅乗降人員、バス輸送人員の推移

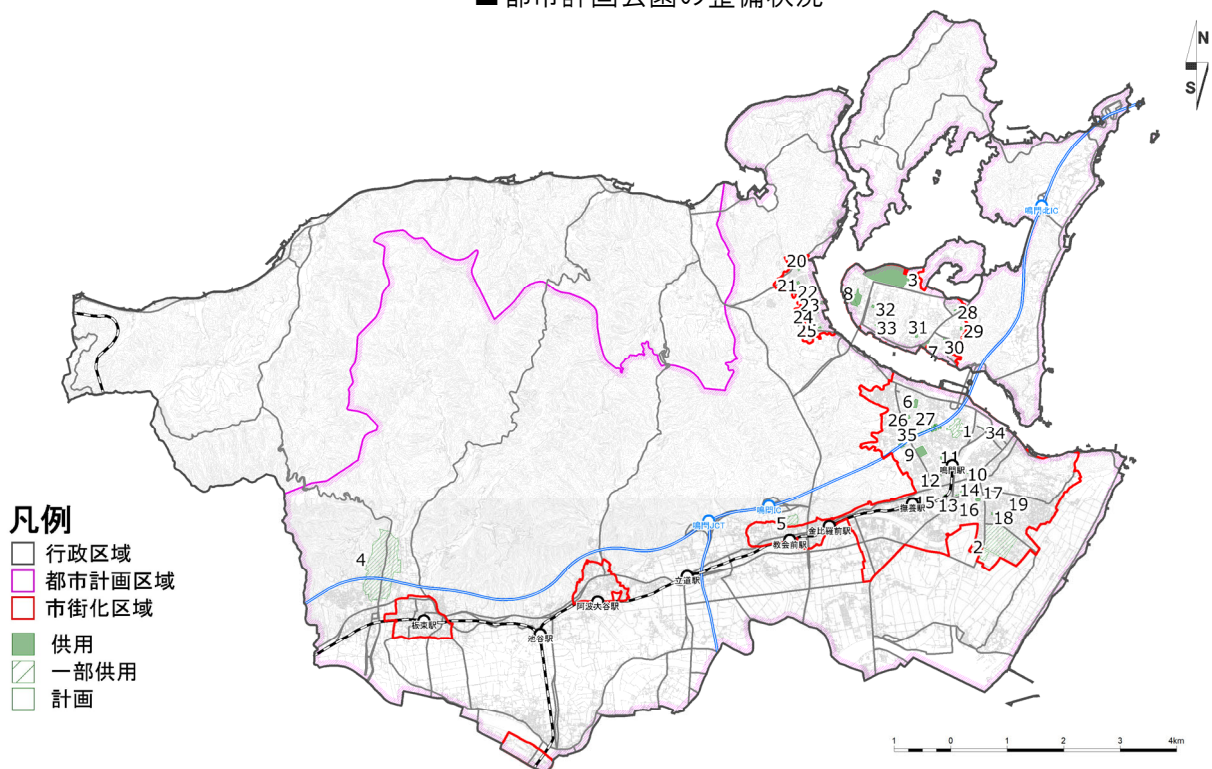


資料：鳴門市統計年報

⑥公園

- 都市計画公園は 35 箇所が都市計画決定されており、そのうち 30 箇所が整備済、残りの 5 箇所は未整備箇所が残されています。
- 都市計画公園の整備率は 61. 7%となっており、徳島東部都市計画区域の平均 51. 3%を上回っています（平成 30 年時点）。

■都市計画公園の整備状況



資料：平成 30 年都市計画基礎調査

ID	種別	番号	名称	計画面積 (ha)	供用面積 (ha)	整備率
1	特殊公園（風致）	7.4.4	桑島公園	5.2	3.4	65.4%
2	運動公園	6.5.2	鳴門総合運動公園	25.8	25.6	99.2%
3	総合公園	5.5.9	鳴門ウチノ海総合公園	22.1	22.1	100.0%
4	総合公園	5.6.5	ドイツ村公園	54.3	10.6	19.5%
5	地区公園	4.3.4	木津城山公園	3.6	1.3	36.1%
6	近隣公園	3.2.6	中水尾川1号公園	0.9	0.9	100.0%
7	近隣公園	3.2.7	鳴門町7号公園	0.8	0.8	100.0%
8	近隣公園	3.3.3	鳴門塩田公園	3.6	3.6	100.0%
9	近隣公園	3.3.10	撫養第1公園	2.3	2.3	100.0%
10	街区公園	2.2.15	林崎公園	0.07	0.07	100.0%
11	街区公園	2.2.16	撫養第2公園	0.23	0.23	100.0%
12	街区公園	2.2.17	撫養第3公園	0.13	0.13	100.0%
13	街区公園	2.2.18	東浜第1公園	0.1	0.1	100.0%
14	街区公園	2.2.19	東浜第2公園	0.25	0.25	100.0%
15	街区公園	2.2.20	東浜第3公園	0.19	0.19	100.0%
16	街区公園	2.2.21	立岩第1公園	0.33	0.33	100.0%
17	街区公園	2.2.22	立岩第2公園	0.16	0.16	100.0%
18	街区公園	2.2.23	立岩第3公園	0.2	0.2	100.0%
19	街区公園	2.2.24	立岩第4公園	0.14	0.14	100.0%
20	街区公園	2.2.42	明神1号公園	0.18	0.18	100.0%
21	街区公園	2.2.43	明神2号公園	0.18	0.18	100.0%
22	街区公園	2.2.44	明神3号公園	0.12	0.12	100.0%
23	街区公園	2.2.45	明神4号公園	0.31	0.31	100.0%
24	街区公園	2.2.46	明神5号公園	0.18	0.18	100.0%
25	街区公園	2.2.47	明神6号公園	0.1	0.1	100.0%
26	街区公園	2.2.48	中水尾川2号公園	0.34	0.34	100.0%
27	街区公園	2.2.49	中水尾川3号公園	0.33	0.33	100.0%
28	街区公園	2.2.51	鳴門町1号公園	0.05	0.05	100.0%
29	街区公園	2.2.52	鳴門町2号公園	0.17	0.17	100.0%
30	街区公園	2.2.53	鳴門町3号公園	0.2	0.2	100.0%
31	街区公園	2.2.54	鳴門町6号公園	0.35	0.35	100.0%
32	街区公園	2.2.55	鳴門町8号公園	0.18	0.18	100.0%
33	街区公園	2.2.56	鳴門町9号公園	0.15	0.15	100.0%
34	街区公園	2.2.57	立岩第一公園	0.29	0	0.0%
35	緑地	11	撫養緑地	2.4	2.4	100.0%
合計				125.93	77.64	61.7%

⑦下水道

資料：平成30年都市計画基礎調査

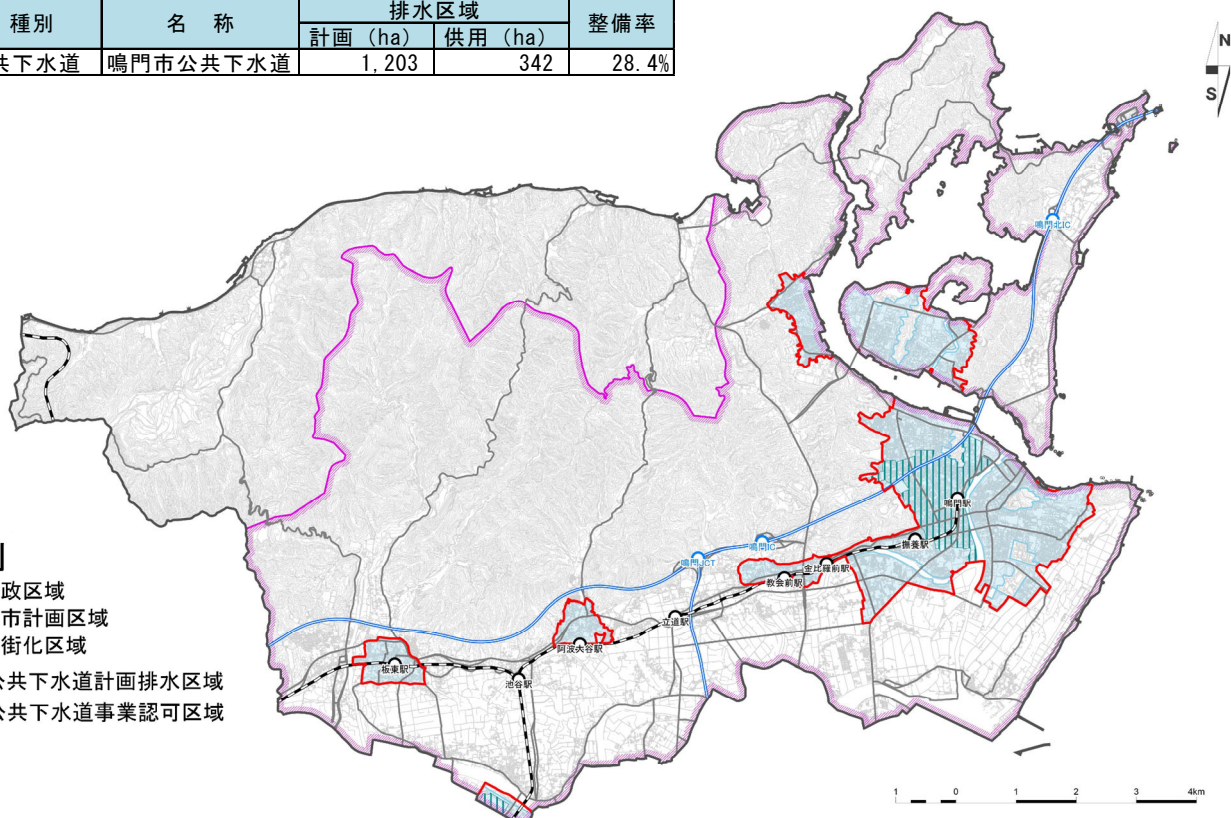
- 公共下水道の整備率は、排水区域内で28.4%となっており、徳島東部都市計画区域の平均34.0%を下回っています（H30時点）。
- 公共下水道汚水普及率は、9.7%となっており、徳島東部都市計画区域の平均31.1%を下回っています（平成30年時点）。

■公共下水道の整備状況

種別	名称	排水区域		整備率
		計画 (ha)	供用 (ha)	
公共下水道	鳴門市公共下水道	1,203	342	28.4%

凡例

- 行政区域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 公共下水道計画排水区域
- 公共下水道事業認可区域

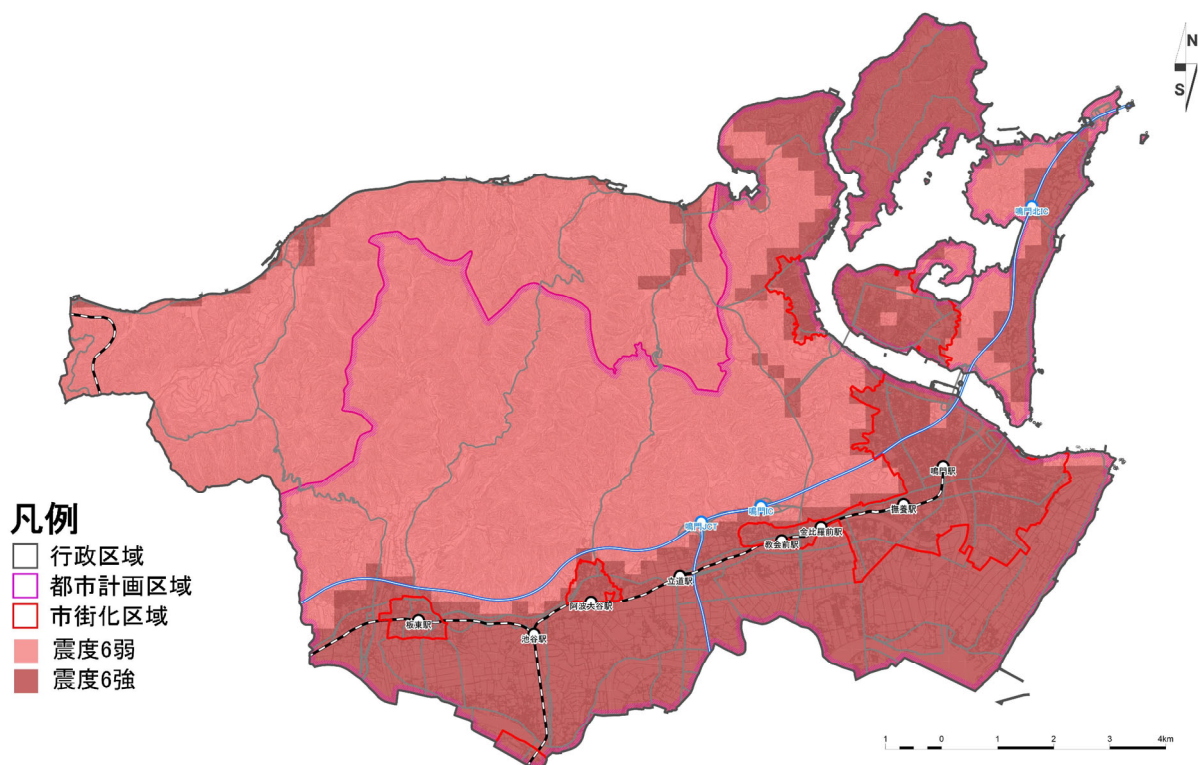


資料：平成30年都市計画基礎調査を加工

⑧都市防災

○南海トラフ巨大地震による最大震度は、市街地や平野部で最大震度6強が想定されています。

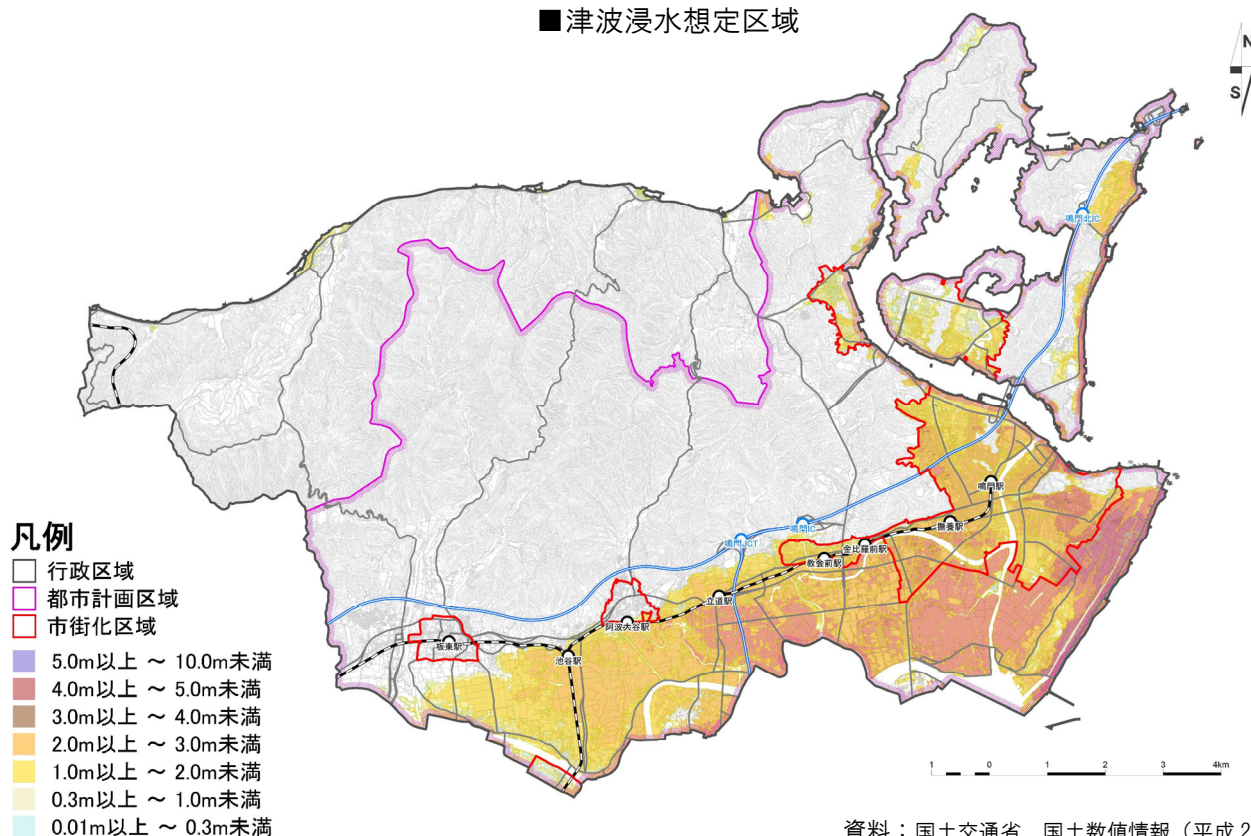
■震度分布（南海トラフ地震想定）



資料：徳島県オープンデータ

○南海トラフ巨大地震を想定した津波浸水想定区域は、沿岸部や海岸沿いを中心に平野部全体に広がっています。特に、市域東側の沿岸部は浸水深 4.0m～5.0m の区域が広がり、鳴門駅周辺や市域南側にも浸水深 2.0m～4.0m の区域が広がっています。

■津波浸水想定区域



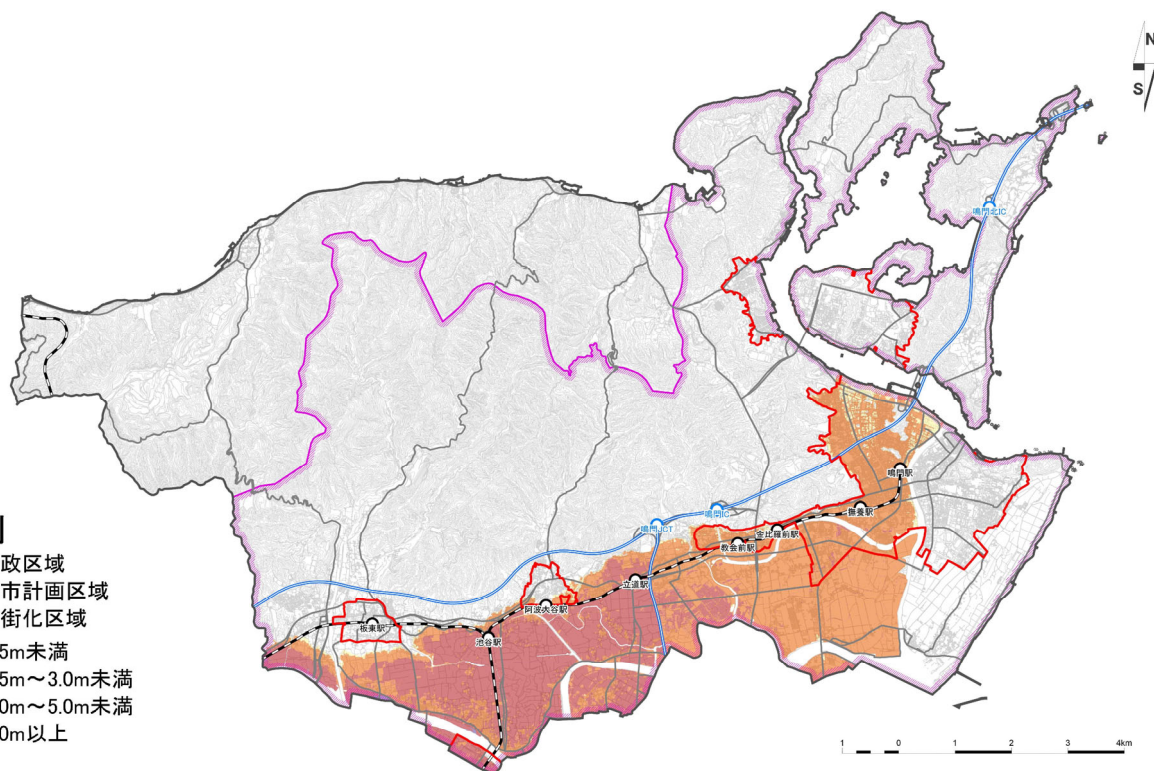
資料：国土交通省 国土数値情報（平成28年）

○吉野川や旧吉野川の氾濫を起因とする洪水浸水想定区域は、市域南側の平野部において広がっています。

■洪水浸水想定区域（吉野川 想定最大規模）

凡例

- 行政区域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 0.5m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m以上



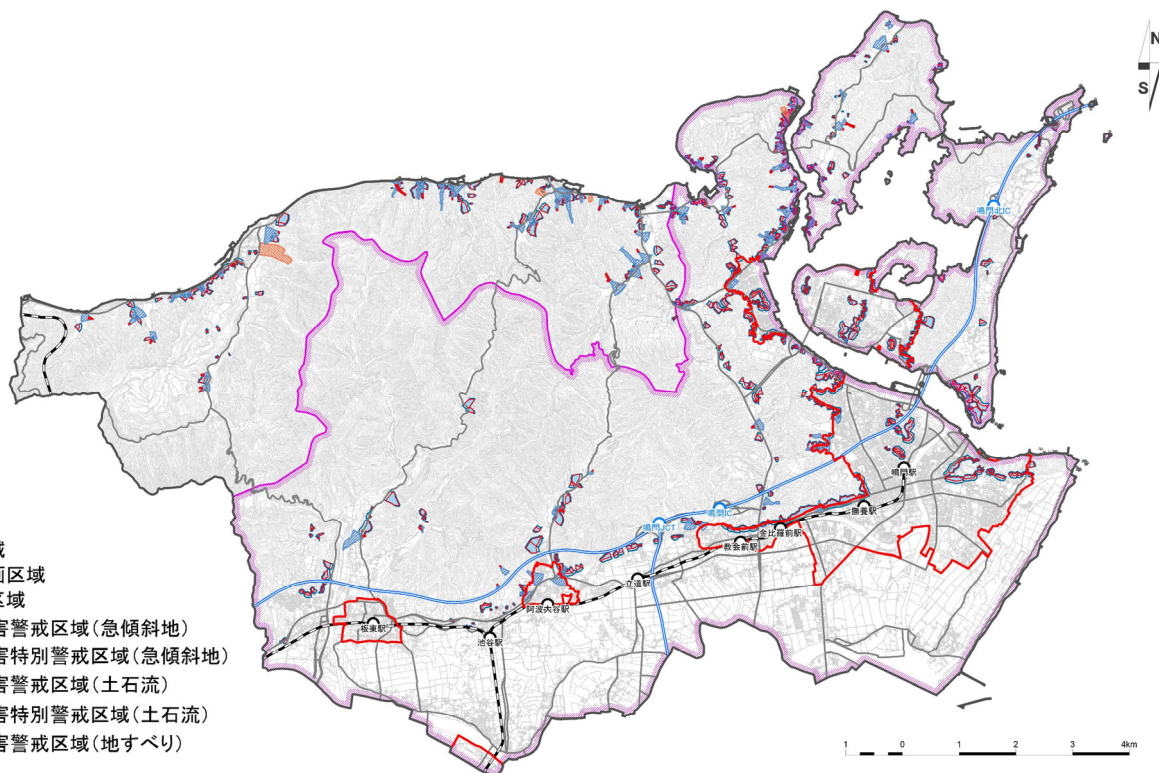
資料：国土交通省 国土数値情報（令和2年）

○土砂災害（特別）警戒区域等は、山の斜面や幹線道路沿い、市街化区域縁辺部などで、市域に広く分布しています。

■土砂災害（特別）警戒区域

凡例

- 行政区域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 土砂災害警戒区域（急傾斜地）
- 土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）
- 土砂災害警戒区域（土石流）
- 土砂災害特別警戒区域（土石流）
- 土砂災害警戒区域（地すべり）

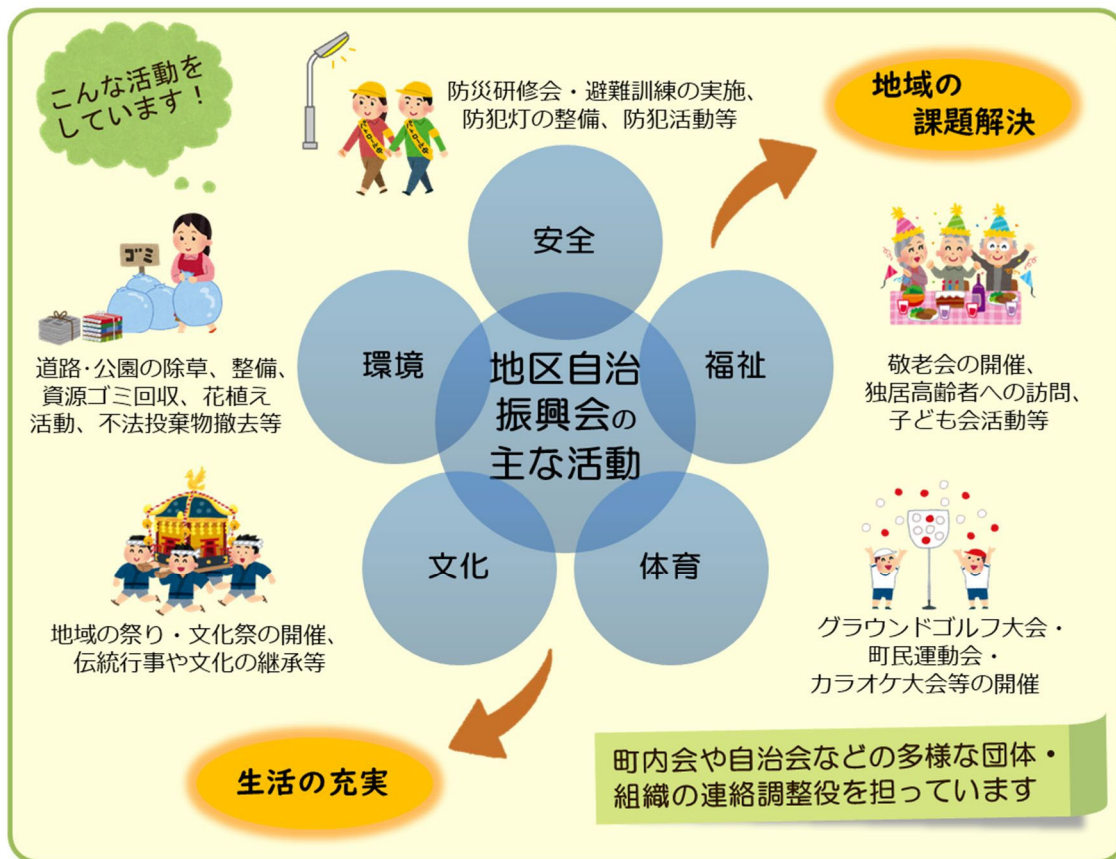


資料：国土交通省 国土数値情報（令和2年）

⑨まちづくり

- まちづくりのルールとなる「鳴門市自治基本条例」を平成 23 年（2011 年）3 月に制定し、「市民が主役のまちづくり」を推進しています。
- 安全・福祉・体育・文化・環境に関する活動を行う地区自治振興会や NPO 法人、NPO 法人以外のボランティア団体が活動しています。

■地区自治振興会のイメージ



2. アンケート調査結果

まちづくりに関する市民の意向を把握し、本計画へと反映させるため、市民アンケート・高校生アンケート・事業所アンケートを実施しました。

市民アンケートは、幅広い年齢層の方から土地利用・都市施設・公共交通・防災等における意向を把握し、高校生アンケートでは、若い世代の意向を把握しました。また、事業所アンケートは、事業活動の状況や施設（商業施設や工場）のあり方などに関する意向を把握しました。

3つのアンケートの調査概要を以下に示します。また、アンケート調査結果を9つの分野（①都市構造、②土地利用、③市街地整備、④道路、⑤公共交通、⑥公園・景観、⑦下水道、⑧都市防災、⑨まちづくり）に分け、課題に繋がる内容を示します。

■市民アンケート

調査地域	鳴門市全域
対象者	鳴門市に在住する18歳以上の市民
調査方法	郵送による調査
配布数	3,000通
抽出方法	市民3,000人を無作為抽出
調査期間	令和3年8月20日(金)～令和3年9月2日(木)
回収数/回収率	987票 / 32.9%

■高校生アンケート

対象者	鳴門高校、鳴門渦潮高校の高校2年生
調査方法	教員による配布・回収
配布数	鳴門高校 275 通、鳴門渦潮高校 199 通
調査期間	鳴門高校 令和3年 10 月 27 日(水)～令和3年 11 月 8 日(月) 鳴門渦潮高校 令和3年 10 月 19 日(火)～令和3年 11 月 5 日(火)
回収数/回収率	411 票 / 86.7%

■事業所アンケート

調査地域	鳴門市全域
対象者	鳴門市内の 300 事業所
調査方法	郵送による調査
調査期間	令和3年11月10日(水)～令和3年11月24日(水)
回収数/回収率	148 票 / 49.3%

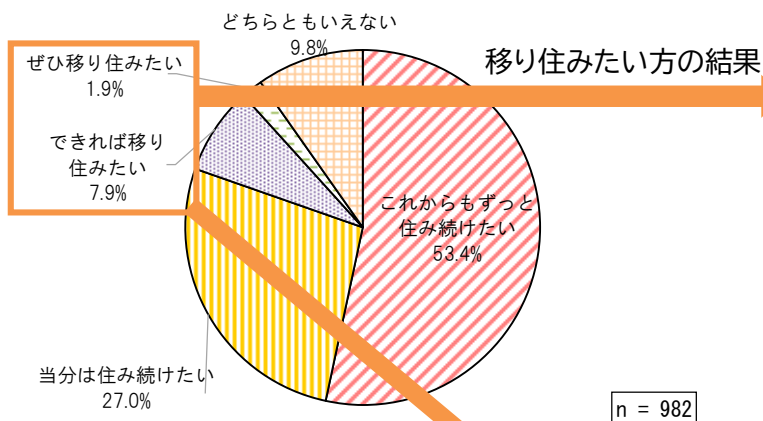
①都市構造

○本市の定住意向は高いものの、移り住みたい方は市外への転出希望の意向が多く、中でも日常の買い物の不便さが移り住みたい理由となっています。

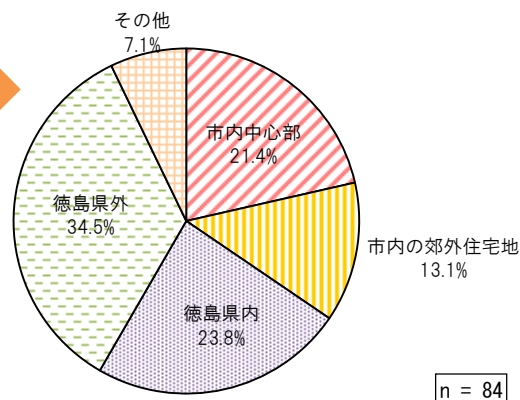
○鳴門市の将来像は、健康・福祉のまち、快適で安全・安心な住環境のまちなどが望まれています。また、高校生は快適で安全・安心な住環境のまち、環境保全のまちが望まれ、事業者からは、観光・交流のまち、商工業のまち、子育て・教育のまちが望まれています。

■定住意向について（市民アンケート結果）

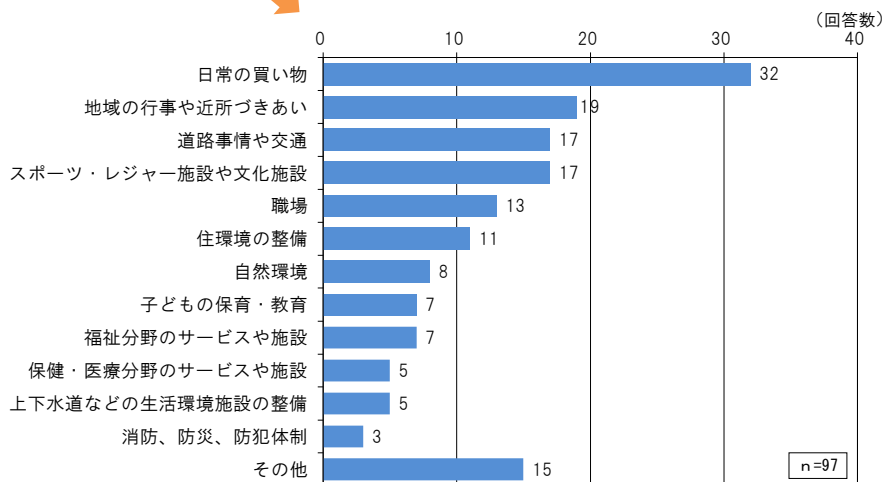
○定住意向



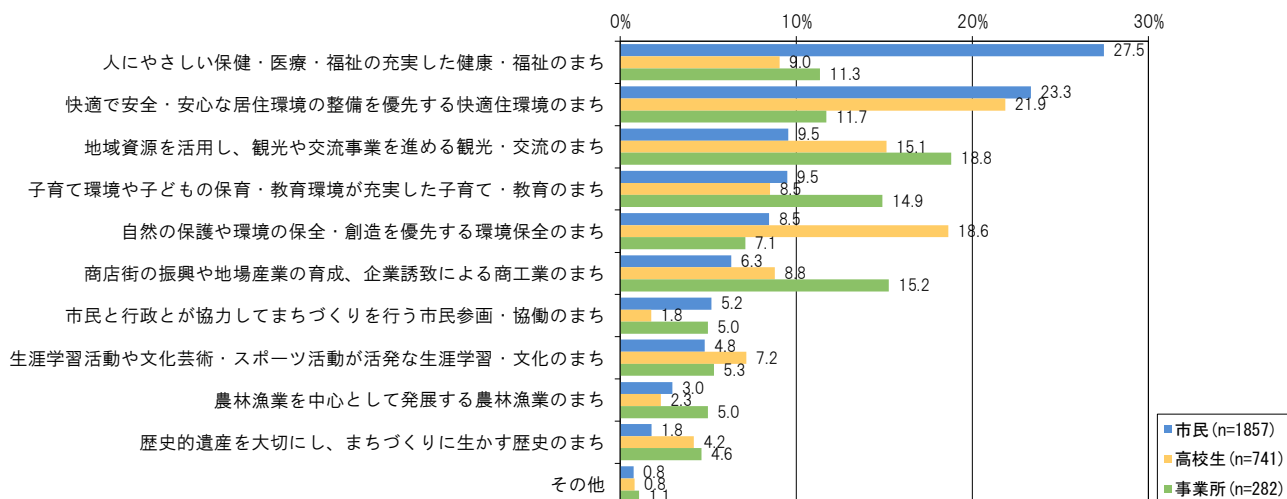
○移り住みたい場所



○移り住みたい理由

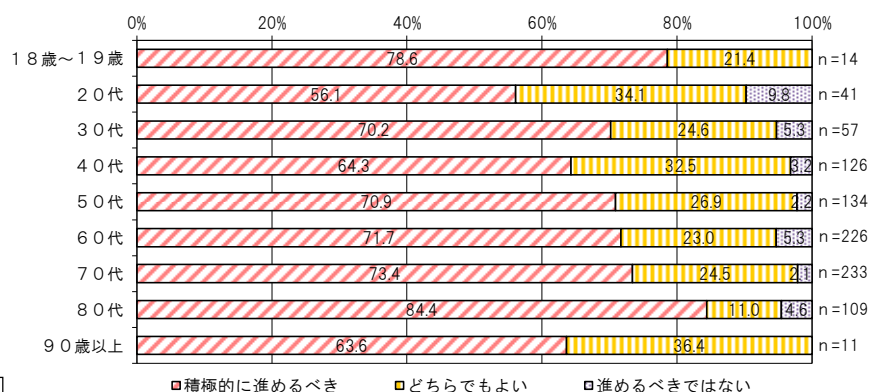
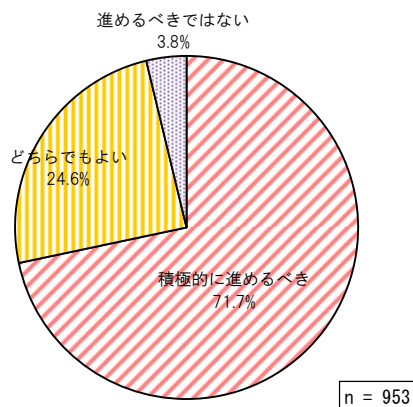


■鳴門市の将来像について（市民・高校生・事業所アンケート結果）

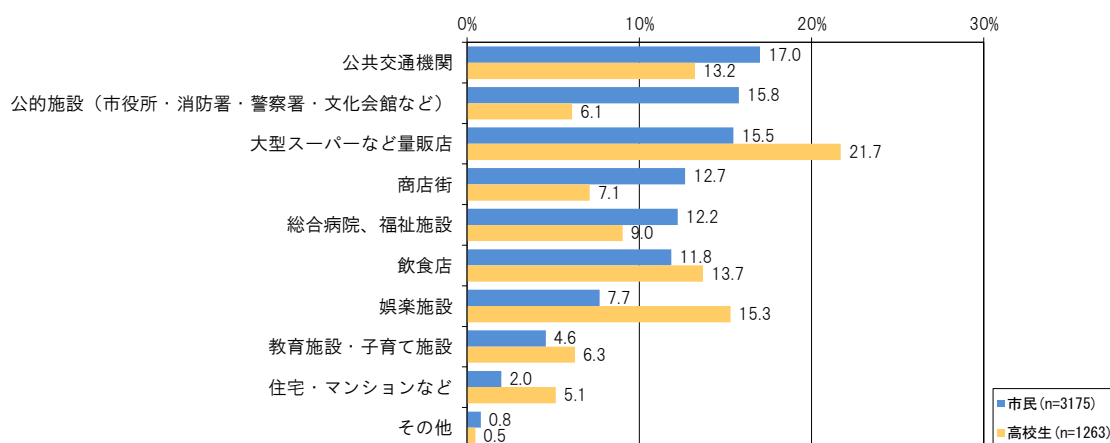


- コンパクトシティの推進については、積極的に進めるべきと回答した方が多く、年齢層が高くなるにつれて多くなっています。
- 中心部に必要な施設として市民は、公共交通機関、公的施設、大型スーパーなど量販店の順に多く、高校生においては、大型スーパーなど量販店や娯楽施設が望まれています。

■コンパクトシティの推進について（市民アンケート結果）



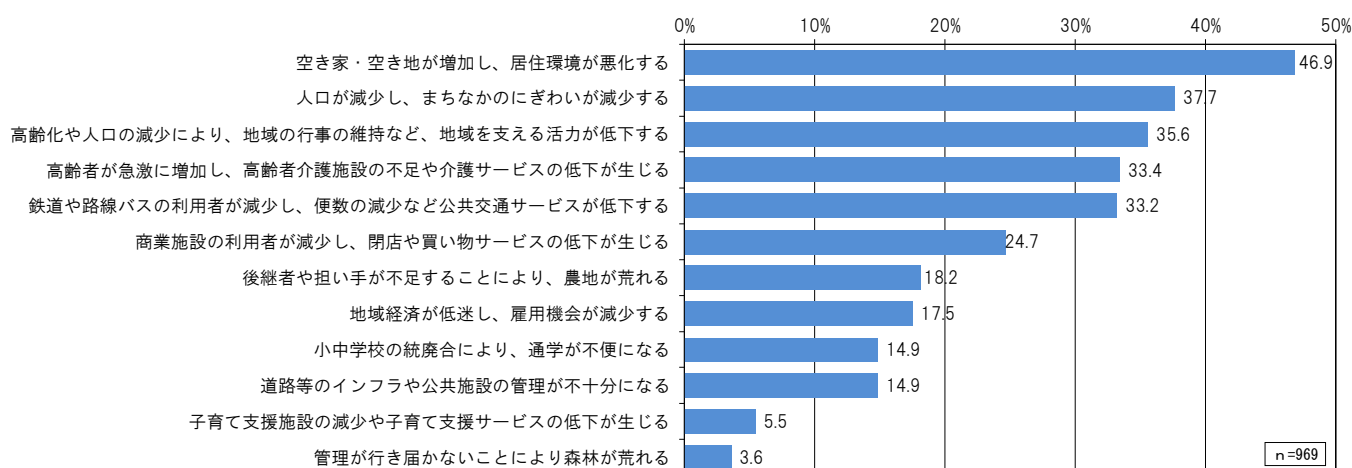
■中心部に必要な施設について（市民・高校生アンケート結果）



②土地利用

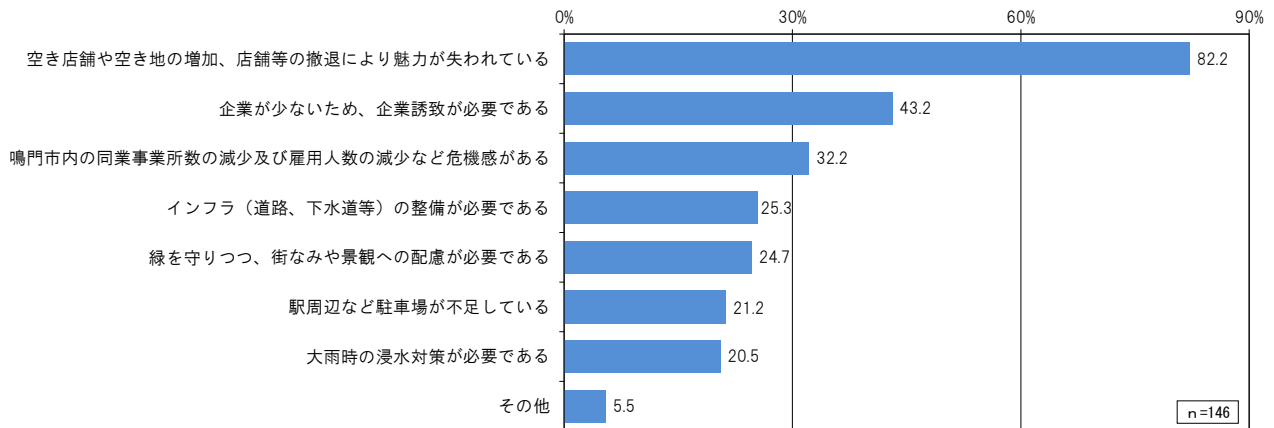
- 人口減少・少子高齢化の進行により、「空き家・空き地の増加による居住環境の悪化」、「まちなかの賑わい減少」、「地域を支える活力の低下」、「介護施設の不足とサービスの低下」、「公共交通サービスの低下」など多岐にわたって問題視されています。

■人口減少・少子高齢化の進行による将来的なお住まいの地域の問題について（市民アンケート結果）

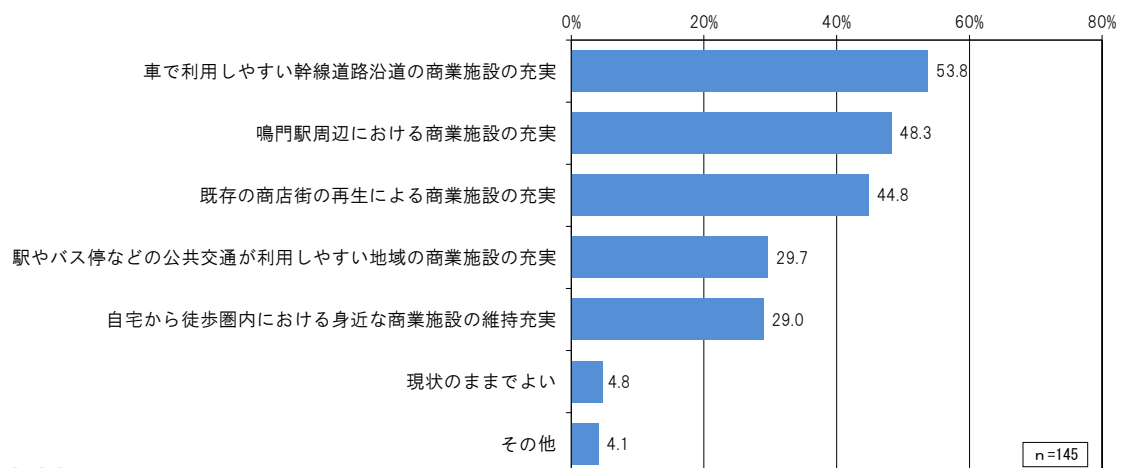


- 鳴門市のまちづくりでは、「空き店舗や空き地の増加、店舗等の撤退により魅力が失われている」ことが問題視されています。
- 商業施設の今後の方向性として、「幹線道路沿道の商業施設の充実」、「鳴門駅周辺における商業施設の充実」、「既存商店街の再生・充実」が望まれています。

■鳴門市のまちづくりに関する問題について（事業所アンケート結果）



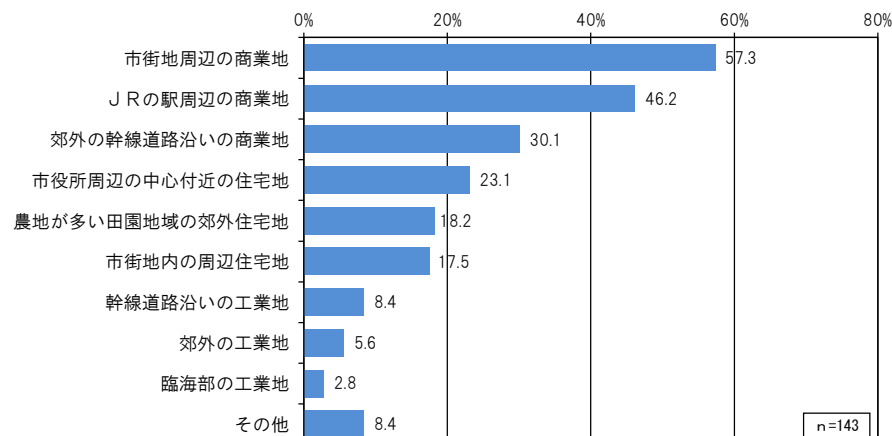
■商業施設の今後の方向性について（事業所アンケート結果）



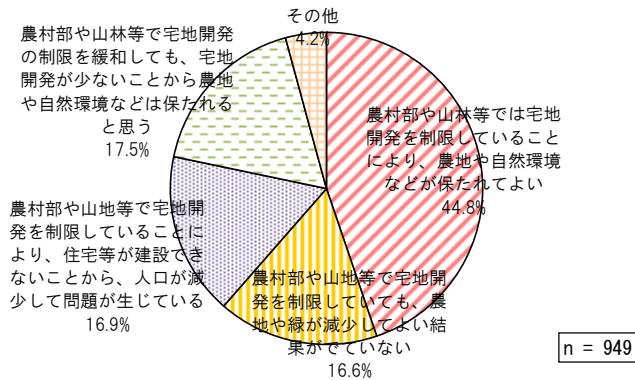
③市街地整備

- 重点的に整備を進めることが望ましい場所は、「市街地周辺の商業地」や「JRの駅周辺の商業地」が挙げられています。
- 宅地開発については、基本的には、新たな開発を求める意向は少なく、自然環境や農地の保全を推進し、開発は産業振興や防災等の観点から計画的に検討することが望まれています。

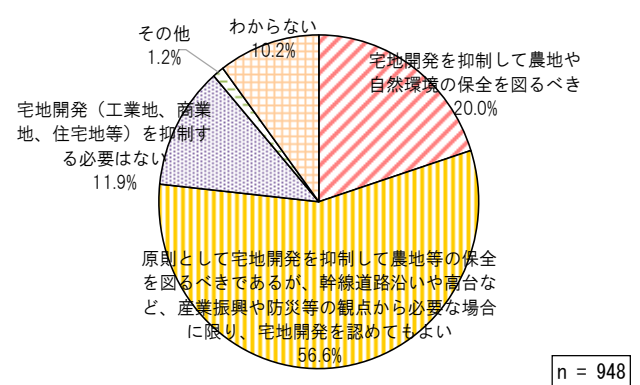
■重点的に整備を進めることが望ましい場所について（事業所アンケート結果）



■宅地開発の制限に関する考え方について (市民アンケート結果)



■宅地開発と農地や自然環境の保全のあり方 (市民アンケート結果)

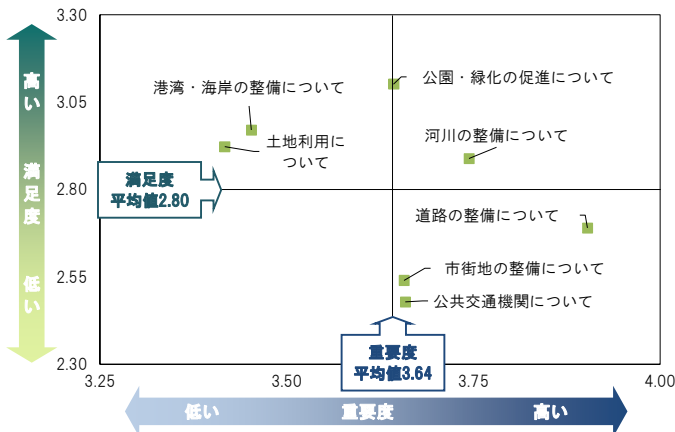


④道路、⑤公共交通、⑥公園・景観、⑦下水道

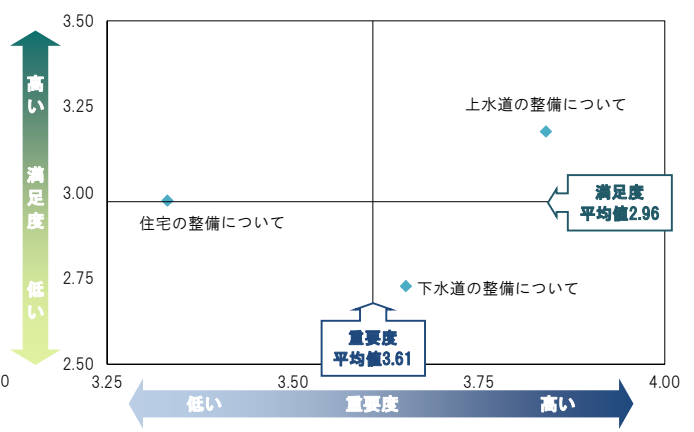
○鳴門市のまちの現状として、都市基盤では「公共交通機関」、「市街地の整備」、「道路の整備」、住環境では「下水道の整備」の項目が重要度は高いものの、満足度は低くなっています。
○その他、産業・観光では「雇用環境の整備」や「観光の振興」、防災・安全・安心では、「交通安全対策の充実」や「防犯対策の充実」の項目が重要度は高いものの、満足度は低くなっています。

■鳴門市のまちの現状の満足度・重要度について（市民アンケート結果）

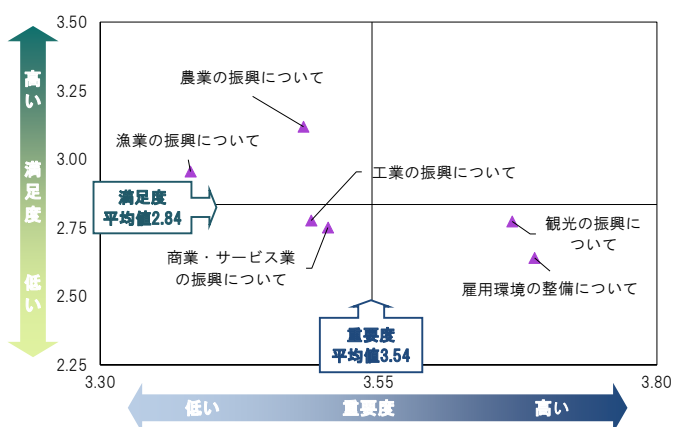
道路・公共交通・公園等の満足度と重要度



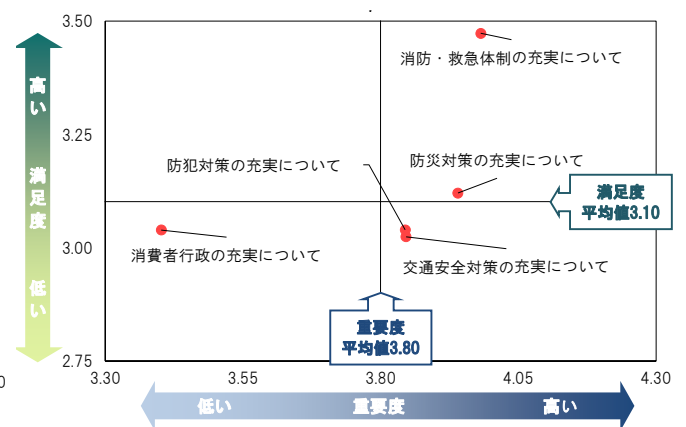
下水道等の満足度と重要度



産業・観光の満足度と重要度



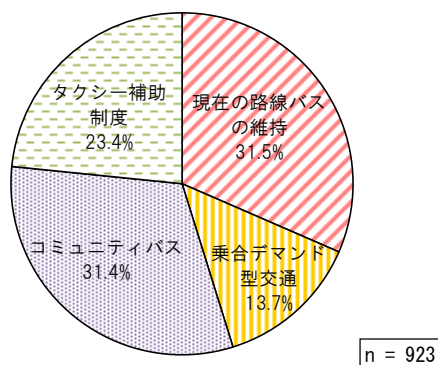
防災・安全・安心の満足度と重要



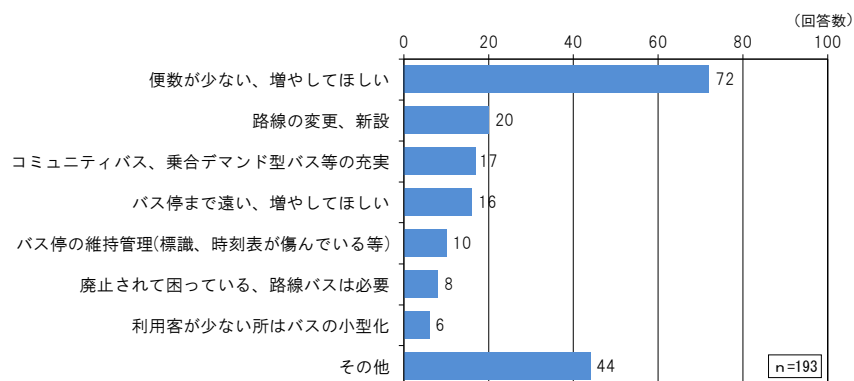
⑤公共交通

- 公共交通に必要なものとして、路線バスの維持とコミュニティバスが挙げられています。
- 路線バスの利用で困っていることとして、便数の増加が望まれています。

■公共交通に一番必要と思うものについて
(市民アンケート結果)



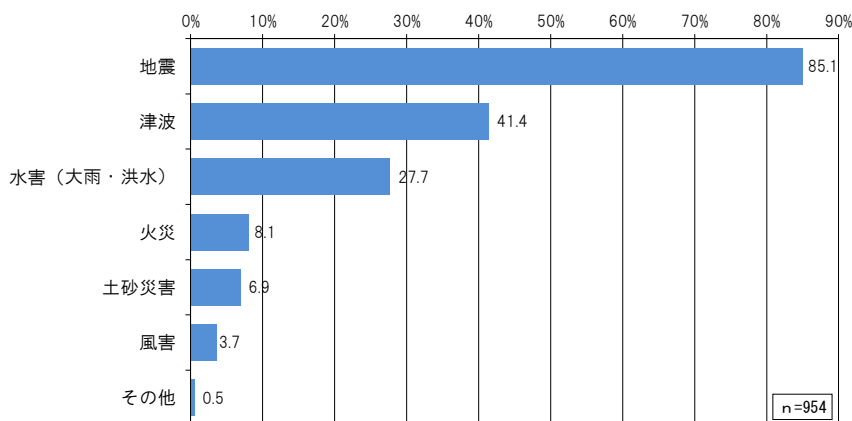
■路線バスの利用で困っていることについて
(市民アンケート結果)



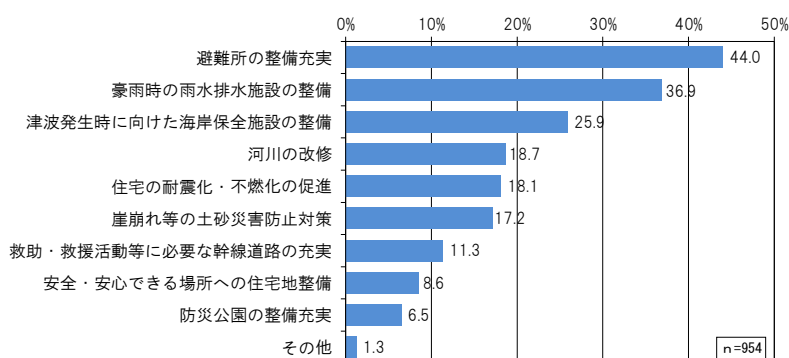
⑧都市防災

- 最も心配されている災害は、地震・津波であり、災害に強いまちづくりに向けた対策として、「避難所の整備充実」や「豪雨時の雨水排水施設の整備」が望まれています。
- 防災マップなどでの居住地周辺の災害リスクや避難所について、把握している方は半数程度となっています。

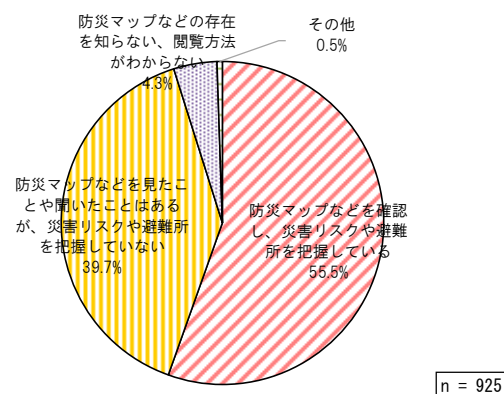
■最も心配される災害について (市民アンケート結果)



■災害に強いまちづくりに向けた対策について
(市民アンケート結果)



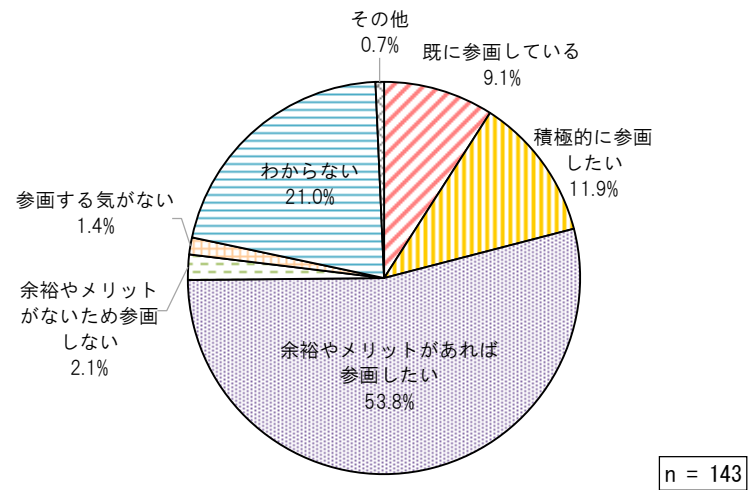
■防災マップなどで居住地周辺の災害リスクや避難所の把握について (市民アンケート結果)



⑨まちづくり

○地域との協働によるまちづくりへの取組や参画について、参画意欲のある方が大半を占めています。

■地域との協働によるまちづくりへの取組やまちづくりへの参画について
(事業者アンケート結果)



3. 課題の整理

「上位・関連計画」、「都市の現状」、「アンケート調査」を踏まえ、都市計画やまちづくりの課題を整理します。

1 都市構造

①鳴門の顔となる各地域の特性を活かしたエリア価値の向上が必要

本市の中心部の文化会館・市本庁舎・商店街、その周辺部では、ボートレース鳴門・道の駅「くるくる なんと」・鳴門教育大学、自然が豊かな地域では、鳴門公園周辺・大谷焼の里・霊山寺・極楽寺・きたなだ海の駅など、各エリアにおいて特徴的な魅力ある資源を有しています。

そのため、鳴門の顔となる各地域の施設や資源等の特性を活かした賑わいや魅力の創出に向け、新たなまちとしてエリア価値の向上を図ることが必要です。

②中心部への都市機能の集積とエリア間ネットワークの形成が必要

市民アンケートでは、「コンパクトシティを積極的に推進すべき」と考える方が多く、中心部には「公共交通機関」、「公的施設」、「大型スーパーなどの量販店」が必要とされています。

そのため、中心部には、商業・行政などの都市機能を集積させるとともに、中心部と各エリアを公共交通で結ぶ利便性の高い都市構造の形成が必要です。

2 土地利用

①都市機能や居住の誘導と市街地拡大の抑制が必要

中心部における人口密度は、鳴門駅周辺や鳴門インターチェンジ周辺などでは一定規模の人口が集積しているものの、その他の地域においては低密度となっています。

そのため、都市機能や居住の維持・誘導と市街地拡大の抑制による、持続可能な都市経営に向けた取組を推進することが必要です。

②都市のスポンジ化対策が必要

市全域で空き家が分布し、特に中心部で空き家が増加し、都市の空洞化が進行しています。そのため、地域の魅力向上や活力の衰退を防止し、低密度な市街地とならないようスポンジ化対策が必要です。

③賑わいを創出する施設の活用と連携が必要

賑わいを創出する施設として、ボートレース鳴門周辺や道の駅「くるくる なんと」等の各拠点施設づくりを推進していることから、それらの施設の活用を図るとともに、公共交通ネットワークの形成による連携強化が必要です。

④産業の担い手の確保や活性化が必要

事業所数や従業者数の減少が進む中、引き続き事業活動を維持し、地域の活力を創出するため、担い手確保や企業誘致等による受け皿の確保が必要です。

農林業などの人手不足により、維持管理できていない農地・山地等については、農林業振興施策と連携を図りながら、自然環境の維持・有効活用が必要です。

⑤防災・減災の視点を踏まえた土地利用の推進が必要

津波や洪水により中心部の広範囲で浸水するおそれがあることから、居住や都市機能等を安全な地域への緩やかな誘導や災害リスクの高いエリアでの開発抑制、避難体制の強化などの検討が必要です。

⑥公共施設の老朽化対策が必要

老朽化した公共施設の更新等が必要であり、限られた予算の中で各施設の長寿命化を図るとともに、公共施設等総合管理計画に基づく集約化や廃止等の方向性を踏まえつつ、計画的な整備・更新等を推進することが必要です。

3 市街地整備

①鳴門駅周辺部における拠点性の向上が必要

鳴門駅周辺部においては、商業・行政等の都市機能の集積と更なる利便性向上により、拠点性を高め、鳴門市の中心部へと市民・来訪者が訪れるような魅力ある市街地の形成と活性化が必要です。

②定住基盤の再整備が必要

高度経済成長期以降に整備された区画整理済市街地及び密集市街地については、街路の劣化や未利用地の点在などを踏まえた、計画的な基盤整備・更新が必要です。

4 道路

①都市計画道路の見直しを踏まえた整備が必要

長期未着手路線や未整備路線の都市計画道路は、必要性や実現性を踏まえた見直しを行っていくことが必要です。

②身近な生活道路の整備が必要

身近な生活道路については、交通処理の円滑化や走行環境の向上を図るとともに、安全性や回遊性を意識した整備が必要です。

5 公共交通

①高齢化、免許返納者の増加や交通が不便な地域に対応した公共交通の検討が必要

市民アンケートでは、路線バスの増便などが望まれる中で、高齢者や学生など自動車を利用できない方のニーズへの対応や公共交通が不便な地域の解消など、公共交通の利便性の維持・確保を目指すことが必要です。

②次世代のモビリティやサービスの展開も視野に入れた公共交通の検討が必要

次世代モビリティとして自動運転、MaaS、AI バス・タクシーなど、今後 20 年間の公共交通に関する技術の発展を視野に入れつつ、持続可能な公共交通の検討が必要です。

6 公園

①公園の質の向上や活用が必要

大規模公園を中心に整備が進んでおり、市民一人当たりの公園面積は高く、身近な公園は確保されていることから、各公園の特性を活かした質の向上や更なる活用、適切な維持管理が必要です。

7 自然環境

①山地や農地等の自然環境の保全や活用が必要

市民アンケートでは、新たな開発を求める意向は少なく、自然環境や農地の保全を推進し、開発においては、産業振興や防災等の観点から計画的に検討することが望まれています。そのため、山地や農地等の保全・活用、また、市民ニーズを踏まえた計画的な開発が必要です。

②グリーンインフラの考え方や手法に関する検討が必要

社会情勢の変化への対応として、グリーンインフラの考え方や手法を検討し、自然が有する防災・減災、地域振興、環境保全など多様な機能を活用していくことが必要です。

8 景観

①本市特有の景観の保全や活用が必要

本市特有の魅力ある景観の保全・活用により、市民の憩い空間の形成や地域への愛着・誇りを高めるとともに、観光客等の増加に繋げていくことが必要です。

9 下水道

①下水道の計画的な整備が必要

下水道の整備率や普及率の向上に向け、居住施策の方向性や財政状況を踏まえつつ、計画的な整備や啓発を図ることが必要です。

10 都市防災

①津波等の災害リスクへの対応が必要

津波や洪水による浸水想定区域は、市街地を中心に平野部の広範囲において想定されており、基盤整備を進めてきた市街地を維持し、住み続けられるよう、ハード・ソフトによる防災・減災対策が必要です。

②南海トラフ地震も見据えた事前復興の取組が必要

大規模災害への対応として、平時から復興に備えた事前の準備や実践に向けた取組が必要です。

11 まちづくり

①まちづくりを担う主体の育成と官民連携によるまちづくりが必要

市民・ボランティア・NPO 法人等のまちづくりへの参画・育成・連携を促し、多様な主体がまちづくりに取り組んでいくことが必要です。

